東京片貝会報

発行所
東京片貝会
中央都日本橋江戸橋1～9
化学工業技術同友会内
電話（271）1922

# 第七回「懇親総会」ひらく

## 歓談の興趣をつくす

### ▽……五月八日　みやこ温泉で

夜半の雨もうやうやしみ、曇りての報があった。

目がら明を迎えた昭和四十一年五月八日（第三日曜日）第七回東京片貝会懇親総会は恒例の目黒みやこ温泉を会場に開催した。

気づかわれた空模様も風雲ながらだいに晴れあがり十時ごろ全くカラリと青空となった。気温も二十七度に高まり、七月上旬をおもわす好天気、十時ごろより役員、係員が来場して所定の位置で受付をはじめる。今回は番幹事の配慮で飛石課の第三日曜をさけ、第二日曜日にくりあげたのであるが、参加者は例年になく少く正午近くなって七十三名の顔がそろった。

定刻をやや過ぎて十三時安達市郎さんの司会で開会の幕をひらく安達履作さんのあいさつにつづき会員間の連絡の強化、郷土産塚開発についての経過報告などが行われた。

ついで吉原三郎さんから会計報告及び新役員の担当部門について来賓として佐藤竜治さんから終わる。これより一同杯をあげ大いに眼かに懇親会に入る。一年ぶ

（なごやかな総会々場）

閉会の辞があり型どおり式次第を郷里片貝の近況、藤塚太郎さんの

の顔あわせに歓談の輪はつきず矢島平、大矢修一、小林太郎、神折宏をひらき歓杯をかさね、隠し芸をひろうなどに腹の皮をよじらせ、踊りなどをかん賞した。き乗り、同サウ、小宮代大、小宮代代子、芝三四司、品田東治、高橋

（第7回総会で事業報告する在りし日の吉原三郎さん）

## 第5号発刊について

本紙発行資金に寄せられた広告料は、年一回の東京片貝会々報として加入会員（約六〇〇名）のニュース報道紙として生れたのであるが、毎度のことながら締切りになっても編集子の机上にはサッパリ、ニュースが集まらない。タブロイド（新聞半裁）の小型紙面だが、さて何を埋めるかとなると、目新しい記事が埋きれて、いつものとおり慣例行事で お茶をにごさねばならずウンザリする。

本紙は号を重ねること両、年一回の東京片貝会々報として、巷生の好意にも相済まない。これは会員間の連絡の不備はさることながら、関係者の怠慢のみ責められない。要は会員が繁忙の生活の中にあっても、せめて郷土愛につながる一片の赤心を傾けてもらいたいものである。

戦前はさることながら戦後のロータリー運動はまことに眩ぶしい。この存立の精神は お互に人間同志が相識り会うことを

第一目的としたもので、最近は日本の地方都市にもドンドン設立をみている国際的クラブである。この会員の場を機会に各自の職業を通じその交流を深めようとするのが狙いである。

すなわち東京片貝会も恥じつめれば、その精神のようどころは同じである。何事も逆さまで、郷土を問じて、郷土を同じくする隣人が親睦を深めようとするのが常である。この意味から東京片貝会の存立を再認識したい。

会員の年令層からみると、明治、大正、さらに昭和生れとなるので、年令間隔が幅広い。したがって時代相の違いというか思想的に断層のあるのは否めない。もっとうえ明治生まれは後退して、大正、昭和の壮青年層にバトンを渡したいと切望している。

しかし、サッパリ昭和生れの参加者が少ない。

理屈を言っては何かに興さめ行事もあろうが、世間をより広く人間形成の場としてこの会を大会も親睦行事に出席され、清新発剌の意気で自分たちの会として これを守り育てていただきたい。

（日本橋の事務所から）

## 急告!! 春季懇親総会は延期

東京片貝会の第二回懇親総会以来、すでに六たび の集会場となった目黒の「みやこ温泉」が、昨年高速道路の地域にかかり、ホテル部門はとりこわしになりました。しかし但会場はそのまま残存しましたので第八回会場として予約中であります。ところがその後、同店の営業方針が変更し宴会場バーとなり、庶民向きの会場には不適当となりました。

以上の事情から本年度の春季懇親総会は一応延期致すことになりました。目下、適当場所の選定中でありますが、近く決定次第（六月中旬ごろ）ご案内（同封別紙）申上げます。

以上の経過をなにとぞご諒承の上、当日は多数お誘いあわせご参加のほどお願い致します。

五月十五日　東京片貝会々場係り敬白

（第7回総会で事業報告する在りし日の吉原三郎さん）

川富士太郎、大刀川勝吉、鶴田国茂、塚本美恵子、鈴木ツタ、長谷川文、早川松太郎、長谷川文、早川松太郎、五十七百六十円、年度会費三千九百円、合計金三万七百円欠席者寄付金・高桑栄太郎（一千円）若林きい、高橋せん（各一千円）小意作（八百円）外に・本田竹次（ジュース・サイダー各百本）長谷川江津（酒類二升）石黒佐忠夫（酒・ビール）高桑栄太郎（食券団扇）等、それぞれ寄附があった。

なお当日の収支・会費七万三千円寄付金五万三千八百円、年度会費三千九百円、合計金三万七百円支払、みやこ温泉、酒類合計九万円小意作（八百円）外に・本田竹次（ジュース・サイダー各百本）長谷川江津（酒類二升）石黒佐忠夫（酒・ビール）高桑栄太郎（食券団扇）等、それぞれ寄附があった。

なお当日の収支・会費七万三千円寄付金五万三千八百円、年度会費三千九百円、合計金三万七百円支払、みやこ温泉、酒類合計九万五千七百六十円、寄付三万四千九百円出は一般会計へ繰入れました。

## 本会幹事長で健闘した吉原三郎さん逝く

### 昨冬十二月、五十七才

本会の幹事長として長年にわたり、会員の発展に尽力されていた吉原三郎さんは、かねてより消化器系の病を患い、医薬に親しんでいたが、昨夏6月上旬、川口市済生会病院で切開手術を行なったが、十一月中旬、前橋天病院に移入院して療養につとめられたが、十二月二十二日午前十一時ついに死去した。

告別式は二十五日午後一時より西日暮里二丁目（六〇の五）の自宅で営まれた。

吉原三郎さんは明治四十一年生れの二男で吉原一郎（左官屋さん）宅に出生し、青年時代に上京し苦闘され、戦後はせんべい工場を経営し、洋風趣味のリーフル草子を創案し、米菓界に新風を開拓するなど事業に積極的意欲をもり、その将来が期待されていた矢先であった。

吉原三郎さんは、本会より生花、香典、焼香したが、本会より花、香典、弔電、祭文、献杯、献花、献酒、献灯、献膳、献菓、献肴、献茶、献水、献米、献塩、献酢、献醤油、献味噌

# 新春懇親会（新年宴会）

## 亀戸の「升本」で開催

### 自慢のかくし芸で賑わう

昭和四十二年新春初顔合せの懇親会を亀戸の「升本」塚本榮寿作会長から会務報告、特に会の功労者、吉原三郎さんの死去に対しての哀悼の言葉をのべられ、幹部役員の病気、老年等、役員の若返りなどについての提案があり、事務局より事務的報告及び近く会員の調査がポツポツ見え始め、後れ馳せながら頑張のあいさつなどで話の花を咲かせる。二次を予定する人員を組み、追加の舞で升本の女中さんたちもはねとんで舞、正三時安達市郎さんの「あり、同氏の音頭で乾杯、懇親に入った。

（写真は会務報告する安達会長）

宴、酣になるにつれ皆さん自慢のかくし芸、歌に踊に冴えつきないながら定刻の五時も過ぎたので片貝の餞別を最後を飾りの宴をとじた。なお別宴に片貝中学校第一回の卒業者、昭和二十二年組の同窓会が開かれており、東京片貝会の青年部会設置についての意見交換等もあり、また一部有志は別室で二次会を開き夜遅くまで歓をつくして散会した。

○申し合せ事項・一、第四懇親会は五月二十一日（第二日曜）二、秋季旅行者は十一月十二日（第二日曜）に行なうことにする。

○当日の参会者次の通り（順不同）会費一、三〇〇円

佐藤笠治（栄寿）安達市郎、安達龍作、安達清蔵、新野今朝二、石黒佐太、石上ちよ、奥田佳子、大矢昌平、神林徳次、岡金正義、高野三郎、高橋千代子、曽田国茂、塚本榮寿子、広井三代次、丸山茂、丸山ふじ、三重堀義雄、武藤久次、山口春次、山崎キイ、長谷川（事務局）以上二十八名。

○寄付金千四百円、合計一万四千円、外に欠席、丸山貫司さんより二千円、清酒一升神林徳次さん、ビール六本升本さん、入会金もち合わせていたが、まず具体的計画千百円、支払四万三千八百円、差引残金七千三百七百円内

# 湯河原温泉「椿まつり」

## 満開の桜に堪能

### 真鶴のサボテン公園見物

（写真は真鶴サボテン公園突端）

湯河原観光協会と小田急電鉄とが共催の湯河原温泉「椿まつり」は青笹荘の広井三代次さんの勧誘により東京片貝会の有志も参加をよびかけたところ、二十一名内二名欠席の参加申込があった。三月三十五日（金）午前十一時半、新宿駅小田急改札口に集合、同十二時発のロマンスカーで小田原へ、これより専用バスで途中の景色をながめながらクシ引き等があって湯河原のキレイドコロによる郷土芸能の余興等に興をわかせた後抽選の発表があり、わが東京片貝会の日氏に一等当選の幸運があたった。これより再びバスに分乗、箱根大観山の満開の桜と椿を観賞し記念の植樹を終えて四時半、広井さん始め大勢の方の出迎えを受けて青笹荘に投宿した。

入浴後夜食につき酒杯をあげ、歓談、かくし芸やのど自慢の披露があり、心ゆくまで温泉分に親しんだ。翌朝十時迎えのバスに乗り青笹荘の方々の見送りを受けて出発、途中真鶴岬のサボテン公園田急改札口で集合し、同十二時発恒例の小田急と湯河原観光協会のロマンスカーで小田原に向った。ここより遊覧バスで海岸線をめぐり、湯河原町休憩館（由歩）で、甘酒、清酒の接待、クシ引き、笛ばやし、芸妓の踊りなど余興に興をわかせた後、車を連ねて箱根ロードウイで時路の椿を観賞し、時って五時過ぎ青笹荘に投宿した。ゆったりとくつろぎ楽しい晩餐を共にしながら温泉分にひたった。翌朝十時半小雨まじりの天候をおして帰路についたが、真鶴公園でおりたときは雨は止み鯵食をしたのち、小田原に至り二時発の特別電車で帰京、3時過ぎ散会したが、同日とも幸い好天に恵れた旅行日和りであった。

当日の参者次の通り。（順不同）

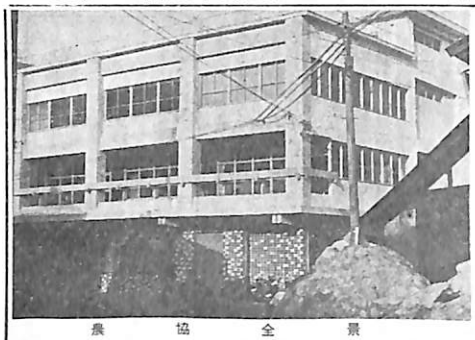
丸山茂、平石マサ外一名、黒崎せき、同スイ、小菅氏六、五十嵐キヨ、大塚たけ、皆川せん、山口タツ、吉井マス、石井りやう、小谷房子外一名、安達熊作外六名、大矢福次外三名、佐藤正雄、安達熊作、長谷川昌夫、以上三十八名、なお丸山茂さんより金壱千円、広井氏代次さんからビール、ジュース、安達熊作さんからジュース、宮崎さんからビール、大矢福次さんから清酒、広井さんからビール、それぞれ寄贈があった。

## 第2回「椿まつり」

### 恵まれた旅行日和り

### 二十八名が参加

恒例の小田急と湯河原観光協会共催の「椿まつり」は、第2回目を迎え昨年に引きつづき東京片貝会に再び勧誘があったので、在京有志会員に参加を促したところ、締切日まで約28名（うち町会有志2名）の応募があった。三月二十六日十一時半、二行は新宿駅小田急改札口で集合し、同十二時発



農協全景

農協内生活センター売場

## 郷土だより

### 片貝農協ビル竣工す

### 鉄筋三階建で一階はマーケット

片貝農業協同組合はさきに営農センターや有線放送の諸設備の整備事業近代化をめざして農業倉庫につとめてきたが、昨春4月5日の建設、農機具センター、育苗セ・かねて計画中の本所事務所の新築工事に着手、その進捗を急いでいたところ、昨年十一月、写真のような堂々たる鉄筋コンクリート三階建が完成し、11日関係者落成式を挙行した。この余興には原田千代野社中連の日本舞踊が披露され祝賀に花を添えた。

この事務所は暖房のモダーンな設備で3階は会議室、2階は有線放送室、応接間や農員の更衣室、1階は信用部を当て、日用食品雑貨類のスーパーマーケットを開いているが連日婦人客で賑わっている。

この建物の総坪数は677・4平方米で総工費は約3千300万円を要した。

## 片貝公民館落成

### 町民の宿願実る

片貝公民館　（前は黒い残雪です）

既報した片貝公民館は昨年六月十五日建場跡に建設工事に着手したが、竣工8月31日に落成、ただ鉄筋2階建て（一部3階）建数は189・11平方米で2階は公民館の会議場として利用する。なお落成祝賀会余興には三町の老人同好会の手踊りがあって好評を博した。

なお掲載の写真は本会幹事、佐藤正雄さん撮影されたもの。ほかに数枚あり、紙面の都合で遺憾ながら割愛した。

**別掲**　招魂場の墓参道改修懇談会のおり、参席者一同によりつぎの奉仕会の草案が承認されたので参考まで転載することにした。

## 中仕山墓参道改修工事趣意書

わが片貝郷土の中仕山（上の招魂場）の墓地はふるくから（一六〇〇年ごろ）開基せられ、郷土文化開拓の先師の霊位を合祀しており、降って明治の中期から日清、日露戦役の陣歿英霊の招魂碑が祭祀されてきました。

眺望ひらけ景勝に恵まれた環境よろしく年々多くの霊代を迎え、その規模においては郷土最大の領域を占めております。

しかるに戦後世相の推移につれ招魂祭祀は廃止されたまま今日に至り、またこの墓参道は数十年にわたる風雪におかされ損壊するにまかせ、何らの補修もされておりません。

とくに登り口の急坂（塚山街道沿い）は荒廃がひどく老人婦女子たちの墓参には歩行に難渋する有様です。

このたび左記のとおり「中仕山墓参道改修奉仕会」を結成し、右の墓地所有者を中心に関係有志諸氏に呼びかけ、この墓参道改修工事に着手することになりました。

祖先崇敬、郷土愛の精神に訴え、よろしく上記の趣旨をご諒察いただきまして応分のご寄付を賜わるよう懇願する次第であります。

昭和四十一年仲秋

発起人　敬白

### 中仕山墓参道改修奉仕会

一、本会は仲仕山墓参改修奉仕会と称す
一、本会は荒廃する中仕山の墓参道の改修および招魂場公園地区の環境整備を行う
一、本会は中仕山墓地の所有者ならびに関係者および前条目的の賛助者をもって組織する
一、本会の事業達成は寄付金および会員の労力奉仕によるものとする
一、本会の事業運営については会員中より若干名の委員を選出しこの委員中より若干名の実行委員を推せんして、その実際の管掌にあたるものとする

（郷土側　東京側　名）

一、寄付金および会計に関する収支は一年一回適当の時期に総会を開き担当委員会より事業報告をかねこれを発表するものとする
一、寄付行為および事業計画は別に規約を定めてこれを行うものとする

マ右の第一期工事計画では登り口坂道約八十米をコンクリート補装を行うこととなっているが、近く実行委員会において具体策を協議決定し募金運動に着手する予定である。

日立電動工具ストール店
各種木工用電動具
鋲打銃ヒルテー
大工道具・建築金物
井ゲタヤ商店
小林敬司
東京都江東区北砂町4丁目40—9
電話東京（644）2562

高級せんべい
吉原製菓株式会社
吉原功
本社　東京都荒川区西日暮里町2丁目60—5
電話（801）2832番
工場　東京都荒川区日暮里町8—869
電話（891）8961番

三菱石油株式会社
大協石油株式会社　販売店
有限会社　藤塚商店
代表社員　藤塚栄三郎
新住所　東京都墨田区太平4丁目17—2号
電話東京（622）9225・（623）6732
倉庫　東京都墨田区太平4丁目17—3号

## 先ず人づくりから
### 郷土に寄せる言葉

吉原三郎氏（遺稿）

本稿は吉原三郎氏が昨夏手術後、自宅で療養に努めながら病床でテレビでみたニュースの感銘を生かして、「人造り」の如何に大切であるかを郷里片貝に寄せるために記した切々とした愛郷の言葉である。はかりそめ起筆となってしまった。ここに編集子が補筆して掲載することにした。

さる九月二十日（四十一年）の記の人たちの涙ぐましい献身が起テレビで紹介された感謝の北方められている。

の碑地、高巻郡のことについて述経済的には貧困な僻地の自治体べてみたい。同村は昭和三十五年ではあるが、過去に未納児の多い人口六千余名、全国でも有数なのに反省し、まず母体の健康管理二千名中、二五〇数名によぶ乳の経済的援助、診療、医薬など幼児の死亡率の高い、多産多死で の経済的援助、および環境の改善知られたところであった。等々あらゆる手が尽くされたのである。

これが昨今では千人に対し四十町長の話によると、町を明るく豊名約四分の一に減じたのである。かにするには、何よりも人造りから保育設備、診療、医薬などの経済的援助、および環境の改善等々あらゆる手が尽くされたのである。

町長の話によると、町を明るく豊